

追加関連論文 (6-メチルキノリン)

追 1 Edmond J.L, Jean D, Maryellen F, Barbara M.W and Charlene A.M. Genotoxicity of fluoroquinolines and methylquinolines. *Carcinogenesis* (1991) 12 (2) : 217-220.

・ ・ ・ P1

SD ラットより摘出した肝細胞を用いた不定期 DNA 合成 (UDS) 試験 (最高濃度 500 μ M (0.07 mg/mL)) では、陰性であった。

追 2 Christine B. Molybdenum Hydroxylases as Drug-Metabolizing Enzymes. *Drug Metabolism Reviews* (1985) 16(1&2) : 119-156

・ ・ ・ P5

ラット肝ミクロソーム以外の細胞画分を用いると、6- (ヒドロキシメチル) キノリンの水酸基がさらに酸化されてキノリン-6-カルボキシアルデヒドとなった後、アルデヒドオキシダーゼによりキノリン-6-カルボン酸にまで酸化される経路や、2位の炭素が酸化を受ける経路の報告もある。

(該当箇所は論文中 130-131, 142 頁 (通し番号では 16-17, 28 頁))

追 3 Nishimura K. and Masuda M., Minor constituents of whisky fusel oils. 1. Basic phenolic and lactonic compounds. *Journal of Food Science* (1971) 36 : 819-822

・ ・ ・ P43

追 4 Viro M., Heterocyclic nitrogen compounds in whisky and beer. *Chromatographia* (1984) 19 : 448-451

・ ・ ・ P47

6-メチルキノリンは、ウイスキーに含まれる (製造工程においてピート (泥炭) の煙で乾燥させた麦芽に含まれるといわれている。) 成分である。